



対馬を中心に生産されている原木シイタケ栽培は、種駒を植菌した後に原木を伏せ込み、菌を早期に原木全体に繁殖させることで、シイタケの発生量が増加します。

そこで、菌を早期に繁殖させる好適な温湿度条件を簡易につくるため、伏せ込み初期（仮伏せ時）に農業用ポリエチレンシートを利用した被覆がシイタケの発生状況に与える影響を検討しました。

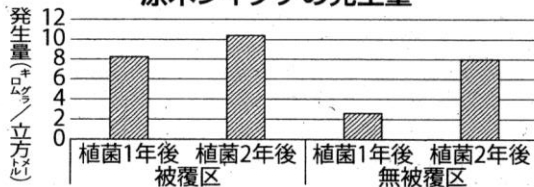
その結果、被覆区では仮伏せ期間中（2017年3月8日～5月16日）の260時間程度がシイタケ菌の伸長に好適な温湿度

度条件（温度25度前後、湿度70%前後）となりましたが、無被覆区でその条件を満たしたのは

仮伏せ時のシート被覆

原木シイタケ菌繁殖 1年後は発生量3倍

原木シイタケの発生量



- 原木にはアベマキを使用し、植菌に使用した種駒は中低温性品種の形成駒で、植菌密度は4000個/立方メートルとした
- 植菌は2017年3月8日に行い、植菌1年後の採取は17年12月8日から18年2月21日に行った。また、植菌2年後の採取は18年11月9日から19年4月4日に行った
- 発生量は生重量で算定した

約1.2倍になりました（図）。

以上のことから、仮伏せ時のシート被覆は、原木内のシイタケ菌の繁殖に好影響を及ぼし、シイタケ発生量を増加させることが明らかになりました。今後は、コナラ原木についても検討し、生産者の増収に寄与する成果の普及を目指します。

（長崎県農林技術開発センター 森林研究部門主任研究員・柳本和哉）

6時間程度でした。

また、シイタケ発生量は、植菌1年後では無被覆区に比べ被覆区が約3倍、植菌2年後では